

2025年6月〜9月

竹久夢二美術館 企画展プレスリリース

# Takehisa Yumeji

# 夢二

でたどる  
アール・ヌーヴ  
オーと



明治〜大正の出版美術にみる装飾趣味

2025

6.7 SAT 9.14 SUN

その周辺

竹久夢二美術館  
TAKEHISA YUMEJI MUSEUM

## ごあいさつ

19世紀末から20世紀初めに、ヨーロッパを中心に流行した芸術様式「アール・ヌーヴォー」は、日露戦争後に日本へ流入して図案界での広がりが顕著でした。

竹久夢二(1884-1934)は、雑誌のイラストをはじめ、書籍装幀等でアール・ヌーヴォー様式の表現を展開します。さらに日常生活の芸術化を体現した「港屋絵草紙店」においても、植物モチーフを中心に、曲線を多用するデザインを手掛けました。

本展では、夢二によるアール・ヌーヴォーの軌跡を展覧し、美術雑誌『ユーゲント』や画家のオーブリー・ビアズリーから受けた影響についても考察します。また明治末期の出版美術において、アール・ヌーヴォー様式の表現を試みた画家と図案家による仕事もあわせて紹介いたします。

## 展覧会の見どころ

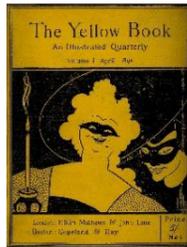
### ① 夢二流アール・ヌーヴォー作品を一堂に展示

ヨーロッパの美術動向に敏感だった夢二は、自身のイラストや図案でアール・ヌーヴォーの表現を試みました。

身近な草花をモチーフにして、書籍・楽譜表紙絵や暮らしを彩る品々に応用。和洋を融合した個性的な装飾を実現しました。

### ② ビアズリー作品を24点展示

オーブリー・ビアズリーの影響を受けた日本の画家は多く、夢二もその一人。併設の弥生美術館で所蔵するビアズリー作品のコレクションと合わせて、ビアズリーから触発されて作画を試みた夢二作品を展示します。



ビアズリーの表紙絵による『イエローブック』

### ③ 明治末期の出版美術にみるアール・ヌーヴォーを紹介

明治末期の出版物も、アール・ヌーヴォー様式の影響が顕著でした。書籍装幀・雑誌表紙絵・絵葉書に展開された、多彩なアール・ヌーヴォーの図案に注目し、夢二に影響を与えた藤島武二をはじめ、橋口五葉・杉浦非水など計19名の作品を展示します。

## 竹久夢二 プロフィール

センチメンタルな画風の「夢二式美人画」をはじめ、恋多く、旅も重ねて大正ロマンを象徴する存在として広く知られる。明治大正期の雑誌に発表されたイラストレーションをはじめ、日本画・水彩画・油彩画・木版画・さらにデザイン分野の作品を手掛け、詩、童謡の創作にも才能を発揮し、詩画を融合させた芸術を開花させた。



TAKEHISA YUMEJI  
明治17年(昭和6年)1884-1934)  
画家・詩人。本名 茂次郎(もじろう)。  
岡山県生まれ。

## 展示コーナーと出展作品

下記のコーナーより展示を構成し、夢二が表現した〈アール・ヌーヴォー〉について紹介及び考察します。

- ◆暮らしを彩る夢二式アール・ヌーヴォー ◆夢二図案にみるアール・ヌーヴォー ◆文字デザインにみるアール・ヌーヴォー
- ◆装幀にみるアール・ヌーヴォー ◆「きのこ」モチーフ ◆美術雑誌『ユーゲント』の影響と夢二イラストレーション
- ◆ピアズリーと夢二 ◆夢二の女性表現とアール・ヌーヴォー ◆ジャポニズムの視点より ～夢二と浮世絵趣味～
- ◆洋画家・藤島武二からの影響 ◆同時代のアール・ヌーヴォー ①絵葉書と書籍装幀を中心に ②雑誌表紙 ③雑誌広告

出品点数

約 **180** 点



### 1. セノ楽譜「言はれぬ嘆き」 1920年

画面の左右に桜草が配された可愛らしい飾り枠が目を引く楽譜表紙絵。中央に描かれた繊細なタッチの少女像は、ドイツの画家・ハインリッヒ・フォーゲラー(1872-1942)の影響が感じられる。



### 2. 千代紙「きのこ」 1914年頃

アール・ヌーヴォー期のガラス工芸作家、エミール・ガレ(1846-1904)による「きのこ」をモチーフにしたランプは有名だが、夢二はベニテングダケを千代紙に図案化した。ワラビの曲線を生かした装飾も洒落ている。



### 3. 手製半襟の図案 1915年

キモノの襟を装飾する半襟を、刺繍をして自作する目的で雑誌『婦人之友』につけられた付録。植物模様を中心とする可愛い図案は、夢二が実践した暮らしを彩るデザイン活動で、生活を芸術化する試みといえよう。



### 4. KOE・MO SEN 1919年

夢二の歌集『山へよする』に掲載された見開きの口絵。和泉式部が詠んだ「越えもせむ越さずもあらむ逢坂(おうさか)の関もりならぬ人などがめそ」を「KOE・MO SEN…」と自筆のローマ字で表している。周囲の装飾カットも含め、夢二の作風はウィリアム・モリス(1834-1936)の書物を彷彿とさせる。



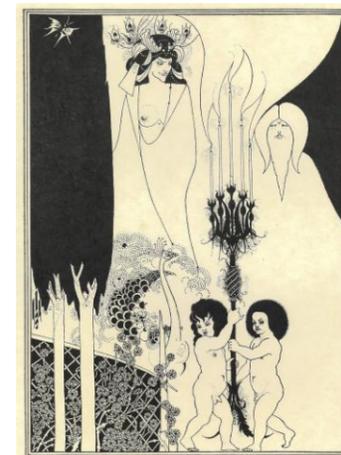
### 5. 無題(スケッチより) 1904年頃

夢二が残したデビュー前のスケッチ帖には、花に彩られた水彩画の女性像が描かれている。円形の中にデザインされた女性は、アール・ヌーヴォーを代表する画家のアルフォンス・ミュシャ(1860-1939)、さらに洋画家・藤島武二(1867-1943)から影響を受けていると思われる。



### 6. 黒猫を抱く女 1920年

夢二の代表作「黒船屋」(日本画)と同様の構図で、木版によって制作された本作は、輪郭線をギザギザに表現している点の特徴である。オーブリー・ビアズリー(1872-1898)が多用した独特の輪郭線を、夢二は自作に取り入れている。



### 7. オーブリー・ビアズリー画「ヘロデ王の目」 1906年

本作は『ピアズリーによるオスカー・ワイルド著「サロメ」の挿画のためのドロージング集』に収められた1点。夢二は所有していたスクラップ帖に「ヘロデ王の目」の図版を貼り付けていた。



### 8. 藤島武二・装幀『みだれ髪』 1901年

与謝野晶子による歌集『みだれ髪』の装幀は、夢二が敬愛する洋画家・藤島武二が担当。「みだれ髪の輪郭は恋愛の矢のハートを射たるにて矢の根より吹き出でたる花は詩を意味せるなり」の解説が付された表紙は、日本のアール・ヌーヴォーを代表する図案である。

# 展覧会概要

## 展覧会名称

夢二でたどるアール・ヌーヴォーとその周辺  
—明治～大正の出版美術にみる装飾趣味—

## 主催及び会場

竹久夢二美術館

## 住所

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

## TEL

03-5689-0462

## 会期

2025年6月7日(土)～9月14日(日)

## 休館日

月曜日(ただし祝日の場合は、翌火曜が休館)

## 開館時間

午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

## 交通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び  
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩7分  
JR上野駅 公園口より徒歩20分



## 入館料

一般 1200円 大・高生 1000円  
中・小生 500円

※弥生美術館と二館あわせてご覧頂けます。

## ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

## ギャラリートーク

6/21(土)・7/20(日)・8/16(土)  
いずれも午後2時より(約45分)

\*企画展担当学芸員が展示解説を行います。  
参加費無料(要入館料)



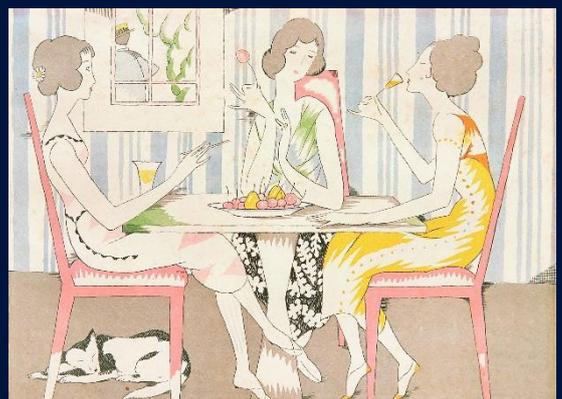
## 9. 展覧会チラシ

### 【同時開催】

## 100年前の夢二

—1925年を振り返る—

100年前の1925年(大正14)に夢二が手掛けた雑誌イラストレーション、楽譜・書籍装幀を展示。また1924年末から暮らし始めた、東京・世田谷の家「少年山荘」の資料及び同時期の恋模様も紹介します。



涼しき装い 1925年

※雑誌『三越』に挟まれたイラスト(口絵)

展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 石川桂子 までお願いいたします。

tel 03-5689-0462 fax 03-3812-0699



FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 石川 行

夢二でたどるアール・ヌーヴォーとその周辺  
- 明治～大正の出版美術にみる装飾趣味 -

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

プレスリリースの掲載図版について、メールで画像データをお送りいたします。

ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、

FAX(03-3812-0699)、もしくはメール ([yumeji-m@muse.ocn.ne.jp](mailto:yumeji-m@muse.ocn.ne.jp)／この申込書を添付) でお送りください。

また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 石川宛